## SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 消費と非消費の間 (年初1ヶ月、雑感)

速いものです、今年ももう1ヶ月が過ぎました。 その間、危機だ、危機だと毎日聞かされ、すっかり危機慣れしたような感じもしますが、皆さんはいかがでしょうか。これが自分の身の上に直接降りかかってくるのであれば違うのでしょうが、人間とは他人の痛みをそう簡単に自分の痛みとして感じないように出来ているようです。だからこそ何とかやっていける存在なのかもしれません。ただ、感じるかどうかは別として、危機は確実に進行しているように見えます。

昨年から今年にかけて驚いたことが色々あり ましたが、その一つは、あの「メリー・チョコレ ート(以下、MCと表示)がロッテに身売りした」 ことです。というのは、その一寸前に、雑誌付録 CDでMC率いる原会長の自信溢れる講演を聴 いたばかりだったからです。以前、その著作も読 んでいたので原さんの講演にはしっかり耳を傾 けました。講演で、原さんは、 MCは自己資本 比率90%超、無借金、保有キャッシュ数十億で、 例え大地震が起こってもびくともしない企業と なった、 銀行も格付けトリプルAの超優良企業 と評価している、等と(何度も自慢ではないと断 りながら)自信たっぷりに話していました。その MCがデリバティブ損失でロッテに身売りした というニュースは私を驚かせ、そして何だか浮世 の儚さを思わせました。

もう一つ挙げるとすれば、「トヨタの資金繰り 悪化」です。自他共に世界的優良企業と認めるト ヨタ自動車が昨秋以降の新車販売急減で月を追 う毎に利益が減少、遂には赤字に陥ると公表した のはご存知の通りですが、トヨタ銀行と評された ほどの優良企業が、実は連結ベースではキャッショ コフローが大赤字で資金確保に走っていパクトが ありました。過去最高益(純利益 1 兆 7 千億円の を計上した 08/3 月期でも連結 C F は 9 千億機の ではないと思いますが、トヨタでさえている会社も似たような状況になっていても不思議 ではありません。正に「トヨタ・ショック」です。 しかし今回のことで、私たちが住んでいる高度 資本主義という経済体制は脆いものだとつくづ く感じました。一般に、個人消費がGDPに占め る割合が過半を超える段階に達した資本主義を 高度資本主義と呼んでいるようですが、所謂先進 国はどこもこれに該当します。個人消費が70% に達するという米国は勿論、60%前後の日本も 高度資本主義国です。高度資本主義国では、個人 消費、とりわけ選択消費と云われる部分が景気に 大きな影響を与えます。

個人消費を、生活していく上で欠かすことの出来ない必需消費と、必ずしも必要欠くべからざるものではない選択消費に分けると、高度資本主義社会では選択消費が50%を超えているといいます。今、先進諸国に於いて、この選択消費の部分が、マインドの後退と実際の所得の減少により大きくへこんでいる状況にあります。

少し考えれば直ぐ解ります。私達の周囲には選択消費で求めた消費財が溢れています。特に、普及率が100%に限りなく近い消費財は厳しい。自動車等がその筆頭となると思われますが、今年買換えを予定していた個人の3割が買換えを1年延期するだけで自動車の売れ行きはざっくり3割落ちます。そして流通在庫がどっと増えます。当然、在庫調整しますから部品や素材の動きも鈍ります。そうして見ると、今起こっている経済事象は至極単純明快です。

人類が築き上げた高度資本主義社会は、<もっと><より>消費するというシステムを内蔵しながら成長して来たような気がします。そして、その<もっと><より>がある種臨界点まで達しそこで破裂した、それが現在なのではないでしょうか。そんな風に思えてなりません。

勿論、こうした考え方が、悲観論者の陥りがちな考え方であることは承知している積もりですが、米国人に、欧州人に、そして日本人に、今以上必要とするモノが果たしてあるのでしょうか。

モノをもっと作り続けなければ、そしてモノをもっと消費し続けなければ成長が維持できないとすれば「成長限界説」が出てくるのは当然のことです。それとも今、世界は、一時的な「節約のパラドックス」(ケインズ)に陥っているだけなのでしょうか。私にはよく解りませんが、世界は今、難しい地点に立っているような気がしてなりません。

発信日:2009.2.7 第577号

《複製・転載等はご連絡下さい》

TEL.0438-53-6092 FAX.0438-53-6096